

主なき田中軍団の乱

美和勇夫

黒澤明の乱。

一文字家最後のとりで

一の城が、黒煙をふき、

まさにおちんとしている。

逃げまどう侍女をしりめ

に、城主、正妻に居座つ

た楓の方が、天守閣に冷

然と座る。

飛び込んできた家臣、

「女狐ノ殿をたぶらかし

無用のことを殿にしい、

一文字家を血で洗ったの

は貴様だ。今こそ思い知

れ、女の智慧の浅はかさ

を！」

楓の方「浅はかだと？

親兄弟を殺された恨みの

こもったこの城が燃え、

一文字家が亡びる様を、
わらわはこの眼で見たか
ったのじゃ」

いやはや、おそれいっ

たる女の執念である。

（乱でストーリーとして

まともに性格が描かれて

いるのはこの楓の方のみ）

★ ★ ★ ★ ★

田中元首相の政治活動

の本丸、越山会東京事務

所は、ジャジャ馬と称さ

れる、そのひとり娘の意

によって閉鎖された。

腹心、早坂秘書は城を

追われ、佐藤昭子女史と

もども路頭に迷う身とな

った。

田中金脈に流れこむ政

治資金が断たれば、田

中事務所の維持は経済的

に苦境に立たされようが、

田中角栄の台所ばかりか

ケツのアナまで知り尽し

た一の家来、早坂を切り

佐藤昭子に絶縁状をたた

きつけるなどとはいかが

なものか。

★ ★ ★ ★ ★

そもそも角栄が倒れた

のは、不摂生にもよる突

然の病である。

クーデターをたくらん

だのは、創政会の竹下一

派であり、早坂秘書や佐

藤昭子ではない。早坂は

たとえ、虎の威を借るキ

ツネといわれようと、陣

笠代議士以上の力を持ち

政務、広報担当秘書とし

て、日本列島改造論に加

わり、どこまでも田中の

忠臣、早坂として仕えて

きた身である。

佐藤昭子女史とて、戦

後第一回の選挙で知り合

い、不遇をかこつ東京生

活で自民党副幹事長角栄

にひろわれ、爾来、女と

して秘書として文字通り

身を捧げ尽して田中につ

かえてきたものである。

角栄正妻、はな夫人と

娘真紀子の氣に入らざる

ものではあつても、一大

権勢を誇つた田中城軍団

にあつては、王を守る飛

車、角の存在である。（向

ける刃のほこ先が違ふ）

★ ★ ★ ★ ★

角栄個人の娘として、

親の身を氣づかう気持は

わかるが、ことは、そん

じよそこらの老人が倒れ

うるさいとりまきと妾を

この際処分しようという

ような私的次元の話では

ない。

問題は、角栄自身が病

床で正常に口がきけたと

した時、いかなる処置、

いかなる指令をとりたい

かという大段自身の御意

向である。角栄の身上は

よきにつけ、悪しきにつ

け、その面倒みのよさに

ある。

目白の犬が病氣になつ

てさえ、犬小屋に一緒に

もぐりこんで安否を氣づ

かう。

古くは政敵、社会党委

員長河上丈太郎が亡くな

ったとき、わざわざ火葬

場へ出向き、二時間も立

ち尽して野辺の送りをし

てなみいる社会党議員を

感動させたその演技。

「デキる敵を取り込め」

「身代わりとなれる部下

をもて」冠婚葬祭にマメ

であれ」落ち目の相手を

救え」女の面倒は最後ま

でみよ」下の者ほど大事

にせよ」人の悪口を言う

べからず」盟友を作れ」

「独自の情報網をもて」

「大胆な着想なきものは

され」人脈こそ最大の条

件」

角栄の身上は、今、娘

真紀子によってことごと

く葬り去られた。

かくなる事態と娘の教

育はさすがに角栄も予測

が出来なかつたのか。

早坂や佐藤昭子がひと

こと口を開けば、たちま

ちマスコミは億の金を積

み、マル秘情報の限りを

洗うだろう。

野にはなれたキツネ

がやがて食うに困る時、

忠臣はいつまで忠たりう

るや。

自らの力で角栄がよみ

がえるより他に、もはや

うつ手はないだろう。

（筆者は、多治見市上

野町在住）